



# PLAY THE BASSLINE

オールドスクールな  
ファンクベース



# オールドスクールなファンクベース

- コードトーン
- スケール
- クロマチックアプローチ
- 特定の音型
- ゴーストノート
- ミュート
- ペダルポイント
- 音価、アクセント
- オクターブ
- アンティシペーション
- スラップ
- 開放弦を使う

# コードトーン

- 時代とともに動きは減る
- 全てのコードトーンを使うわけではない
- コードトーン内でのクロマチックアプローチなどはジャズと同じ手法
- ハイブリッドコード
  - 実質的にはドミナント7thとして処理
- R+7
  - ドミナント、マイナー系で使用可能
- R+5
  - ドミナント、マイナー系で使用可能 2ビートのなものにも
  - メジャーコードに使うものとして2度、6度を加えたパターンなどもある。

# スケール

- コードに対するプライマリースケール
  - メジャー系
    - コードトーンのアプローチが中心
  - ドミナント7th系統
    - ミクソリディアン
    - ブルージーさを演出するときはブルーススケール
    - ドリアンとミクソリディアンを混合して使うことあり
    - ファンクコード一発ものではミクソリディアンが多い
  - マイナー系
    - ドリアン
    - 6thを強調
    - ブルーススケール

# クロマチックアプローチ

- Jamersonが確立したと言っていい
- 次のコードのルートに対するクロマチックアプローチ
  - 半音
  - 2音
  - 3音
- コードトーンに対するクロマチックアプローチ
  - ルート
  - 5度
  - M3度
  - m7(特殊)

# 特定音型

- よく使われるリズムパターンが有る
  - リズムパターンを守れば他の音に置き換えしてもらしさはある
  - 候補 R,5,ゴースト、7th

♩ = 103

el.bs.

1 *ff* *f* 2 *ff* *f* *ff* *mf* *f ff* *f* *mfff* *mf* *ff* 3 4

5 *mfff* *mf* 6 7

X 7 8 9 5 0  
3 X 0 1 2 X 3 3 X X X X X X 3 3 X X X X

X 5 5 X 5  
3 X 3 3 3 3 3 X 3 3 3 1 2 3

# ゴーストノート

- 2種類ある
- タッチ・ミュート、チャッキングともいう ミュートした弦を叩く奏法
  - Bernard Edwards
- ピッキング・ミュート ミュートした弦を弾く方法
  - タッチミュートはEzbassにはある
- パッドでは弾くのは現実的ではない
  - やるならマッピング
- 通常16分音符
  - レイドバックしない
  - 最小音価の強調
- 音量に注意
  - スラップなどではかなり大きい
- フレーズの単調さ、リズムを取るためにも使う。
  - Rや5度などと置き換えてもバリエーションを作れる

# ミュート

- パームミュート
  - MODOBASSではミュート具合をコントロールできる
- オールドスクールなものだと楽器についているが、そういう音源はない
- ファンク・ソウル系ベーシストはいくつかのミュートの手法を持っている
  - パームミュート 右手ミュート 右利きなら右の手のひらを弦に当ててデッドな音にする
    - 親指弾きになることが多い
      - Fred Thomas
      - Marvin Isley
  - 左手ミュート
    - 弦に軽く触れ、音程感をなくす
  - 左手押弦＋ミュート
    - 左手で実音を出しながら左手の一部をあてるテクニック。Rocco Prestiaが有名



# ペダルポイント

- 一般的なペダルポイントと違う
- その小節内のトニックやドミナントと組み合わせる
  - クロマチックアプローチと組み合わせることが多い。
- ファンクやソウルだけの手法ではない
  - ブルースのターンアラウンドなど
- 譜割りを細かく出来る
  - 解決の遅延
- ゴーストノートに置き換えても機能する

# 音価・アクセント

- 音価を短くすることでアクセントとして機能させる
  - ギターも同様
- 音量が低い部分はテヌートで弾くこともある
- アクセントを音価で表現していることはある。
  - これを利用してフレーズメイクできる。
- **長さは超重要。**

# オクターブ

- 同一音程でもオクターブに置き換えてバリエーションを作ることが出来る
- ディスコなどで多用される

# アンティシペーション

- 多用される
  - 8分音符、16分音符分選考することは普通。
  - コード楽器だけではなくて、ベースも任意で行われる

# スラップ

- 一曲通してスラップは少ない
  - 例外(Larry Graham)
- アクセントのみプル
- ゴーストノート音量注意
  - かなり大きい
  - 左手

# 開放弦の使用

- ポジション移動を楽にするため
- E,A,D,G
- テンションノートとして開放弦を組み込む
- Jamersonスタイル
  - 影響を受けた人たちも開放弦は使う
  - Willie Weeks
  - Chuck Rainy
  - WILTON FELDER
- ウッドのスタイル